

クラス番号	616	担当教員名	近藤 克則
テーマ	保健医療福祉のマネジメント		
著書・論文 研究課題等	『医療クライシス』を超えて(医学書院, 2012), 「医療・福祉マネジメント第2版」(ミネルヴァ書房, 2012), 「健康格差社会」を生き抜く(朝日新書, 2010), 「高齢者の終末期ケアの質を高める4条件とケアマネジメント・ツール」(共編著, 中央法規, 2010), 「検証『健康格差社会』—介護予防に向けた社会疫学的大規模調査」(編著, 医学書院, 2007), 「脳卒中リハビリテーション第2版 早期リハからケアマネジメントまで」(編著, 医歯薬出版, 2006), 「健康格差社会—何が心と健康を蝕むのか」(医学書院, 2005, 社会政策学会奨励賞受賞), 他 「近藤克則のページ」参照 http://www.nihonfukushi-u.jp/kondo/index.html		

ゼミナール概要

キーワード：介護予防, リハビリテーション医学, ケアマネジメント, 地域ケア, 終末期ケア, 高齢者の保健医療福祉, 保健医療福祉のマネジメント, 医療・介護政策, 健康格差社会, 社会疫学, 福祉社会開発

【ゼミの目標と運営方針・内容】

- 1) テーマは, 介護予防から終末期ケアまで&臨床から政策まで「保健医療福祉に関わるものなら何でもあり」
- 2) ニーズアセスメント→ゴール設定→プラン→実行→モニタリング→評価の「マネジメントサイクルを学ぶ」
- 3) 自分たちでアイデアを出し合い, 企画し, 実行していく中で企画力を培う「ゼミ生参加型の計画・企画作り」
- 4) サブゼミでテーマを分担し, 自分たちで調べ, まとめ, 発表し, 討論して「多面的能力開発をめざす」
- 5) 同窓会などでの先輩との交流や, 聖隷福祉事業団の見学など, 「現場を知る機会」を提供
- 6) レジューメ作成や卒論執筆を通じて, 社会人として求められる「資料や根拠に基づき考え, 書く力を開発」
- 7) それまでに蓄えた知識を引き出す「問題解決型チュートリアル」や「ケースメソッド」を4年生で実施
- 8) 全員がサブゼミに所属し, 一度はゼミ運営委員も体験して, 「チーム・マネジメントを学ぶ」機会を提供
- 9) 春合宿(3月末)、夏合宿、年数回のコンパ、さらには卒業後の同窓会など「一生の友達づくり」の場を提供
- 10) 4年生の9月末には卒論完成。10月からは国試対策に専念して「国試全員合格」を目指します。

【ゼミの目標・運営方針に対する担当教員の思い&略歴】

私は, 学生時代に正規のカリキュラムよりも, 自主ゼミ活動など, 課外活動にエネルギーを注いでいた。だから, 与えられた講義(半分は10年もすれば古くなる専門知識)よりも, 苦労や失敗をしながら自ら学んだこと, 身につけた「生き抜く力」, 開発した能力, 考えた将来像などの方が, その後役立ったという思いが大きい。だから, ゼミ生にも, 専門知識そのものの習得よりも, 講義では身につかない情報収集やプレゼンテーション力, 「生き抜く力」, 「勉強の仕方」「考え方」などを身につけ, 将来を考える機会を提供したいと考えている。

医師になってからの14年間は, リハビリテーション医学会専門医のかたわら, 地域ケア, 患者会活動や在宅での看取りなどにも関与, やがて「第一線の臨床専門職がいくら努力しても, 制度・政策が悪いと良いケアができない」と感じ, 政策研究の道を目指し1997年日本福祉大学へ。だから関心のあるテーマ・研究テーマは, 上の【キーワード】のように広い。

より詳しくは「近藤克則のページ」<http://www.nihonfukushi-u.jp/kondo/index.html>を参照

【ゼミ卒業生の進路】

医療ソーシャルワーカー, 老人保健施設・特別養護老人ホームの相談員・ケアワーカー, ケマネジャー, 地域包括支援センター, デイサービス, グループホーム, 社会福祉協議会, 福祉系企業(ニチイ学館など), 一般企業, 公務員, 大学院進学を経て大学講師, NPO 法人理事長など

【履修上の注意】

2013年1月30日か31日に, 顔合わせを行います。必ず参加してください。詳しい日時と会場は, ゼミ履修決定者にメールで連絡しますので, メールアドレスは所定欄にきちんと記載して下さい。3月26-27日頃に, 1泊2日の春合宿を行う予定です。予定を空けておいてください。

担当教員からのメッセージ



このゼミは, すべてお任せのバック旅行のように「楽をしたい人」にはお勧めしません。充実した時間を過ごし, 力をつけるために, 避けられない努力や苦労, 失敗をいとわない人を歓迎します。

希望表には, 1)「志望動機」, 2)過去どんなことに「汗をかいてきたのか」, その中でどんな思い・教訓・実績を培ってきたのか, 3)将来に向けて「どんな(福祉)職業人になりたいか」「何を学びとりたいか」を書いてください。この作業自体が, 就職活動にも不可欠な自己分析となるはずです。